|  |  |
| --- | --- |
| 分野 | 総合分野（学校設定科目等） |
| タイトル | 新旧のビジネスリーダーが目指す企業の在り方 |
| 教材からの学び | １　渋沢栄一と豊田章男会長の人物とビジネスに対する考え方を知る。２　新旧のリーダーの共通点を知り、企業のあるべき姿、あるべき経営について考察し、企業の進む道を理解する。３　ビジネスと道徳の関係性を知り、企業倫理の必要性について理解する。４　時代が変化しても不変の根本的なものを理解する。 |
| 時間数 | ２時間（講義及びアサインメントの作成１時間、ケースメソッド１時間） |
| 授業の進め方 | １時間目（講義とアサインメントの作成）＜ケース教材を用いた講義及びアサインメントの作成＞・ケース教材に渋沢栄一と豊田章男会長について記載されているのでそれを読む。・両名に対する理解を深めるために、ケース教材に記載されているYouTube動画を視聴する。特に渋沢栄一については動画によって理解促進が図られるので必ず視聴する。・講義終了後、アサインメントを作成する。授業時間中に終わらない場合は学習課題とするか、もう１時間アサインメント作成のための時間をとる。２時間目（ケースメソッド）＜グループ内意見共有＞・最初の10分は４～６名程度のグループ内意見共有を行う。10分でアサインメント全てを意見共有できないので、アサインメント３・４を中心として意見共有を行う。＜全体意見共有＞・アサインメントの順で意見共有を行う。重点的に行いたいのはアサインメント３・４・５になるので、アサインメント１・２については、スプレッドシートや授業支援アプリなど（ロイロノートなど）を活用して意見共有してもよい。＜振り返りの共有＞・授業の最後に振り返りを書かせるとともに、スプレッドシートなどを活用して生徒同士で振り返りの共有を行うとより学習効果が上がる。 |

ケースメソッド　「新旧のビジネスリーダーが目指す企業の在り方」

～変化する世の中で不変のものは何なのか？？～

授業計画

■本単元の位置付け

ビジネス探究プログラム　基礎学習

■本単元の目標

１時間目（ケース教材を用いた講義及びアサインメントの作成）

　・渋沢栄一と豊田章男会長の人物とビジネスに対する考え方を知る。

　・渋沢栄一の「論語と算盤」の内容を理解する。

　・ビジネスと企業倫理の関係性を理解する。

　２時間目（研究発表）

　・新旧のリーダーの共通点を知り、企業のあるべき姿、あるべき経営について考察し、企業の進む道を理解する。

・時代が変化しても不変の根本的なものを理解する。

　・他者の意見により、多面的・多角的な視野を獲得する。

■評価の規準

【Ａ】知識・技術（アサインメント１・２）

 ・ビジネスリーダーの考え方について理解し、リーダーとしての資質や思考について自己の意見を述べることができる。

【Ｂ】思考力・判断力・表現力（アサインメント３・４・５）

・ビジネスと企業倫理の在り方を知り、あるべき企業の姿について自己の意見を述べることができる。

・時代が変化しても変わらないものについて考察し、自己の意見を構築することができる。

・他者の意見から自己の意見との違いを発見し、新たな意見を構築することができる。

【Ｃ】主体的に学習に取り組む態度

・事前アサインメントに主体的に取り組むことができる。

・積極的な発言。グループや全体での意見共有時に、更に良いアイデアを出そうと努力をする粘り強い態度。

 ・振り返りにより、今回の学習を今後に生かしていこうとする態度。

■留意事項

・評価はケースメソッド評価シートを用いて行う。

・ケースメソッドには間違った意見などはないので、発言しやすいような雰囲気を教員がつくるとともに、否定はしない。

**新旧のビジネスリーダーが目指す企業の在り方**

**～変化する世の中で不変のものは何なのか？？～**

2024年。１万円札の肖像が福沢諭吉から渋沢栄一に変わりました。また、2021年にはＮＨＫの大河ドラマ「青天を衝け（つけ）」で渋沢栄一の生涯が演じられました。今回は歴史上のビジネスリーダーとして渋沢栄一、現代のビジネスリーダーとしてトヨタ自動車の豊田章男会長、それぞれの考えから未来のビジネスの在り方、変化する世の中で不変のものについて考えます。

**＜渋沢栄一＞**

渋沢栄一は徳川慶喜に仕えたのち、明治新政府で大蔵省の役人として貨幣制度の導入など財政制度の基盤を整え、辞してからは実業家へと転身し生涯に500もの会社を設立しました。資本主義（商工業）の発展に尽力し、「日本資本主義の父」とも呼ばれました。

まさに現在の日本経済の礎を築いたともいえる渋沢栄一ですが、彼が提唱した「倫理と利益の両立」の思想は、現代でも多くの経営者が目指すべき形と言えるでしょう。

|  |
| --- |
| ＜渋沢栄一が設立に携わった企業や団体の一部：企業名は現行の企業名＞みずほ銀行、三井銀行、三菱ＵＦＪ銀行、りそな銀行、日本銀行、東京海上日動、日本郵船　ＪＲ　ＫＤＤＩ　東洋紡績　王子製紙　ニッピ　サッポロビール　キリンビール　新日本製鉄　ＩＨＩ　川崎重工業　第一三共　理化学研究所　東京ガス　清水建設　東急不動産　東京証券取引所　帝国ホテル　大日本印刷　東京建物　古河機械金属　日本商工会議所　東京都健康長寿医療センター　全国社会福祉協議会　帝国劇場　日本経済新聞社　東洋経済新報社　日本放送協会　など |

企業設立だけではなく、約600もの社会公共事業、福祉、教育機関の支援と民間外交にも熱心に取り組み、数々の功績を残しました。特に実学教育と女性教育に力を入れました。渋沢栄一が大学設立に携わった当時は、学問は社会で実際に活用されるような教え方はされていませんでした。しっかり学問を学んでいても、実生活で役立つような教育はされていなかったのです。渋沢栄一は社会で役に立つような学問を教えるべきだと、実学教育に力を入れるようになります。しかも、私たちが現在学んでいる商業教育に力を入れ、東京商業学校（現・一橋大学）、高千穂商業学校（現・高千穂大学）、大倉商業学校（現・東京経済大学）などの商業関係の教育機関の設立に寄与し、簿記などの専門性の高い技術や英語といった実学を学ばせました。何らかの専門性を身に付けようという明確なビジョンのもと、用途が明確な生きた知識、技術を習得することは重要と考え、オンリーワンの存在として社会で重宝される人物を育成したかったのではと思われます。また当時は男尊女卑の考え方が残っていたため、女性が教育を受けることはあまりありませんでした。女性にも教育や学問は必要であると考え、伊藤博文、勝海舟らと女性が教育を受けることを目的とした女子教育奨励会を設立します。その後も、女性が教育を受けることのできる場所として日本女子大学校、東京女学館の設立に携わりました。

　このような、多くの功績を遺した渋沢栄一が76歳のときに「論語と算盤」を出版しました。論語とは孔子の書とされる中国の古典です。渋沢栄一は論語を「生きるうえで道を踏み外さないためには論語を熟読しなさい」と語っている。そして、その「論語」で商売ができないか、その教えに従って商売をすれば、利殖を図ることができるのではないかと考えました。しかし、このような考えは当時では全く発想できない考え方でした。なぜなら「論語」は「商売でお金を儲けること」と全く反対のものと考えられていたためです。当時、お金は卑しいものと考えられていました。江戸時代の身分制度は「士農工商」。商人は一番下に置かれました。商売は安く買って高く売るのが基本です。つまり、利幅で儲けることがズルをしているようにも見えるため、潔くないと考えられていたためです。しかし、「論語」を読み込んだ栄一は「論語は商売を否定していない」と解釈し、さらにはその教訓は商売に活かせるのではないかと考えました。孔子は商売を推奨しているわけではないが、語っている内容は、商売をするうえで大変なプラスになるのではと得心したわけです。そして「論語」を商売用に読み替えていく作業を行いました。それが「論語と算盤」です。「論語を道徳」「算盤を経済」と置き換え、「実業の根幹には倫理観がなければならない」というメッセージを後世に遺しました。

　参考文献：渋沢栄一　（2008年）　「論語と算盤」　　　　　　株式会社KADOKAWA

　　　　　　齋藤孝　　（2020年）　「渋沢栄一と論語と算盤」　フォレスト出版株式会社

　渋沢栄一を理解するためのおすすめYouTube

　・今回は特別編：実業界の父　～渋沢栄一～　（2015年：TOKYO MX）　約13分

　<https://www.youtube.com/watch?v=CzGJ9aD_3iQ&list=PLzDBFkZ6bVAlczV-3JTxEvS2wE-UI1pdA&index=1>

　・【10分でわかる】渋沢栄一「論語と算盤」【第一人者が解説】（2020年：筑摩書房）　約10分

　<https://www.youtube.com/watch?v=0moROikluqE&list=PLzDBFkZ6bVAlczV-3JTxEvS2wE-UI1pdA&index=2>

**＜トヨタ自動車　豊田章男　会長＞**

トヨタ自動車会長（豊田章男会長）の想い　トヨタイムズ「2020年3月期決算説明会豊田社長メッセージ」より　　<https://www.youtube.com/watch?v=Otq8EZT3CM4&t=22s>　約20分

（一部抜粋）

・「未来に向けたトヨタのフルモデルチェンジ」「モビリティ・カンパニー」へのフルモデルチェンジ」

　・「自分が思い描く理想の形で、次世代にタスキを渡したい。」この一念に尽きると思います。「トヨタらしさを取り戻す」というのは、過去に時間を使うことだと思います。過去に時間を使うのは私の代で最後にしたい。次の世代には未来に時間をつかわせてあげたい。だからこそ、未来に向けた種まきだけはしておきたい。これが私の考える「理想のタスキ渡し」です。

　・トヨタが長年にわたって、ずっとこだわり、ずっと「やり続けてきたこと」をお話させていただきます。それは「国内生産300万台体制の死守」（生産を人件費等が安い海外へ拠点を移さず、国内で最低でも300万台の製造を死守する）「日本にはモノづくりが必要であり、グローバル生産をけん引するために競争力を磨く現場が必要だ」という信念のもと、まさに「石にかじりついて」守り抜いてきたものです。トヨタだけを守れば良いのではなく、そこにつらなる膨大なサプライチェーンと、そこで働く人たちの雇用を守り、日本の自動車産業の要素技術と、それを支える技能をもつ人財を守り抜くことでもあったと考えております。

　・私はトヨタを「強い企業」にしたいと思ったことは一度もありません。トヨタを「世界中の人々から頼りにされる企業」、「必要とされる企業」にしたいという一心で経営の舵取りをしてきたつもりでございます。私は、「世の中の役に立つ」ために、世界中の仲間と「ともに」強くならなければいけないと思っております。

　・今回のコロナ危機で、考えさせられたことがあります。それは「人間として、企業としてどう生きるのか」ということです。地球とともに、社会とともに、全てのステークホルダーとともに生きていく。ホームタウン、ホームカントリーと同じように「ホームプラネット」を大切に、企業活動をしていくということです。そして、もう一つ、多くの人たちが、改めて、気づいたことがあると思います。それは、「感謝」の気持ちです。医療の最前線で我々の命を守ってくださっている方々はもちろん、私たちの日常を支えてくださっている全ての方々に対する感謝の気持ちです。今まで当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなくなった今、「当たり前のものなど何一つない。どこかで誰かが頑張っているおかげなんだ」ということに気付かされます。地球環境も含め、人類がお互いに「ありがとう」と言い合える関係をつくっていく。企業も人間も「どう生きるか」を真剣に考え、行動を変えていく。私たちは今、大きなチャンスを与えられているのかもしれません。そして、それは、ラストチャンスかもしれません。トヨタは、日本で生まれ、世界で育った「グローバルなモノづくり企業」です。私たちの使命は、世界中の人たちが幸せになるモノやサービスを提供すること、「幸せを量産すること」だと思っております。

　　 そのために必要なことは、世界中で、自分以外の誰かの幸せを願い、行動することができるトヨタパーソンを育てることだと思います。私流に言えば「YOUの視点」をもった人財を育てるということです。これが、ウィズコロナ、アフターコロナの時代に向けて、私自身が全身全霊をかけて取り組むことだと思っております。そして、これは「誰ひとり取り残さない」という姿勢で国際社会が目指している「ＳＤＧｓ」、「持続可能な開発目標」に本気で取り組むことでもあると考えております。

＜アサインメント＞

１　渋沢栄一の考えで印象に残ったことを書いてください。（ビジネスに限らず広い範囲で考えましょう）

２　トヨタイムズ「2020年3月期決算説明会豊田社長メッセージ」で印象に残ったことを書いてください。

３　渋沢栄一と豊田章男会長の共通点は何だと思いますか。（行動や考え方など幅広く）

４　３を参考にしながら、企業のあるべき姿、あるべき経営はどのようなものであると考えますか。

５　変化する世の中で不変のものは何？？あなたの意見を書いてください。

|  |
| --- |
|  |

年　　組　　　番　　氏名